

経営比較分析表（令和4年度決算）

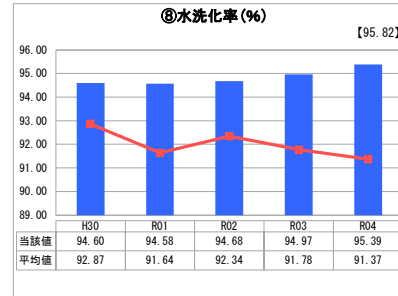
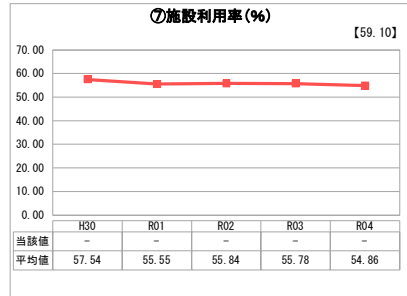
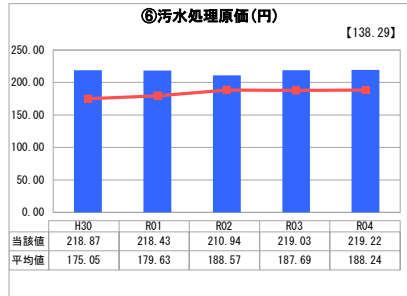
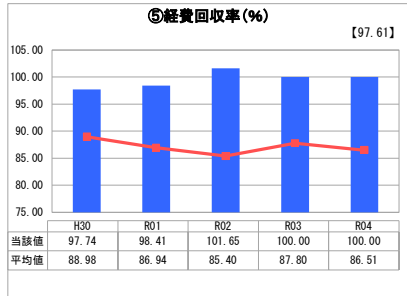
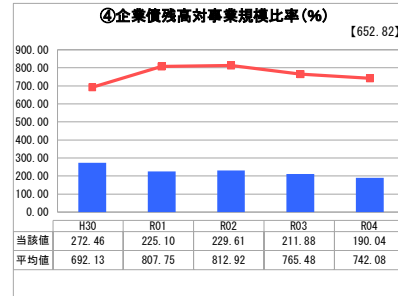
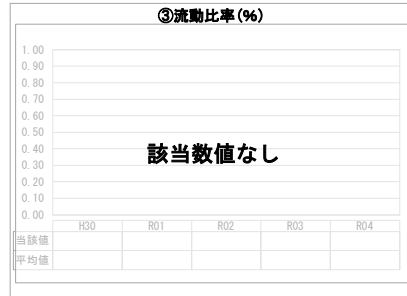
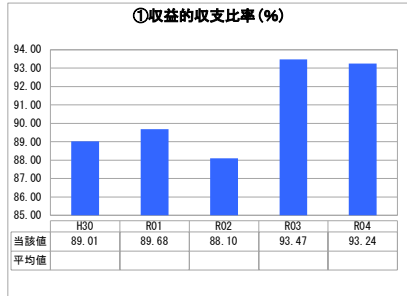
山形県 高島町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	公共下水道	Cd1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	58.43	89.77	4,290

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
22,094	180.26	122.57
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
12,824	5.65	2,269.73

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
[] 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

いずれの指標も、下水道整備事業が落ち着いたため、横ばい傾向にあり、経営状況については類似団体平均よりも若干良い状況にある。企業債残高については、整備開始当初借入分の償還終了に伴い、今後も大きく減少していく見込みである。令和3年度までは新型コロナウイルス感染症の拡大防止のためステイホームが呼びかけられたことで、一般家庭での使用量が増加し、使用料収入が増加していたが、令和4年度については従来の生活に回帰しつつあり、使用料収入についてもコロナ禍前の水準に戻りつつある状況である。使用料収入減少の一方で、令和4年度から本格的に取り組みを開始した老朽管更新事業による建設改良費の増加や昨今の物価高騰を受けた維持管理費の増加が経営上の課題であり、このような経営環境下にあっても経費回収率を維持できるように今後も引き続き下水道接続の推進による使用料収入の増加と事業の適正化・効率化による費用の削減を図る必要がある。

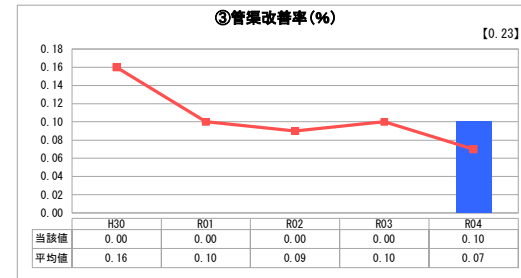
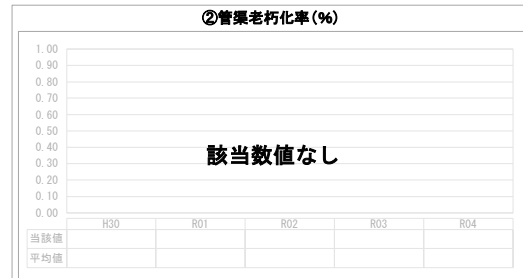
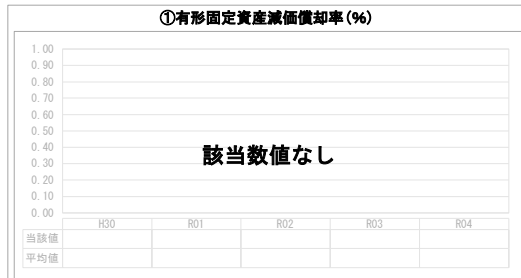
下水道使用料については20㎡あたり4,290円(消費税込み)と県内一高い水準にあるため、更なる使用料の値上げは難しいが、経営戦略やストックマネジメント修繕・改築計画等に基づき、より計画的且つ効率的な事業経営を今後も進めていく。

2. 老朽化の状況について

当町の公共下水道建設事業は昭和48年に着手し、県内市町村で5番目の早さであった。そのため、管路等の老朽化が進んでいる部分もあるため、令和4年度よりストックマネジメント修繕・改築計画等に基づいた老朽管の更新に着手した。多額の費用が見込まれることから国庫補助金等を有効に活用しながら更新事業により経営悪化を招かないよう事業を進めていく。

マンホールポンプについては、以前より計画的な更新を行っており、令和3年度までに全て更新を終えている。

2. 老朽化の状況



全体総括

主要な管渠整備事業が平成26年度で終了し、処理区域内における整備は概成している。前述の通り、県内でも早期に下水道事業に着手していることから、埋設から40年を超える管渠も少くないため、今後は老朽管の更新が重要事業となってくる。

ストックマネジメント修繕・改築計画に基づき今後の管渠更新を進めていく予定であり、この先の経営状況を見極めながら、適切な収支計画を立て、健全な経営を行っていく。

なお、下水道事業は令和6年度から法適用事業へ移行すべく、現在移行作業を行っているところであり、企業会計へ移行することで、現在以上に的確な経営状態の把握ができるようになることが期待される。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。